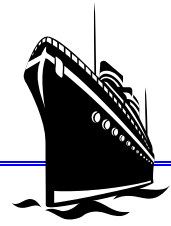


MSI Marine News

トピックス

●海上保険の総合情報サイト **MARINE@vi** もぜひ、ご覧ください。(http://www.ms-ins.com/marine_navi/)



アルゼンチン・パラナ川の最新状況と事故防止策について

河川は多くの国々で水上輸送に大きな役割を果たしていますが、アルゼンチン・パラグアイ・ブラジルにわたって流れるパラナ川には多くの商工業港が点在し、多くの船舶が航行しています。このパラナ川で2015年5月以降、座礁事故が多発していますので、改めて最新状況・留意点・事故防止策などについてご案内します。

1. パラナ川とは

南米ラプラタ川水系最大の川で、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスはパラナ川河口近くにあります。全長4,500kmに及ぶパラナ川は、上流はパラグアイを経由してブラジルにつながっており、流域の物流に大きな役割を果たしています。河口から450km上流にあるサン・ロレンツォ港には2万トンを超える大型船の寄港が可能となっているなど、船舶通航量の多い川です。

2. 水位低下による座礁リスク

パラナ川は、その水深が水の流量や季節によって変動することから座礁などの事故が多く発生する川としても知られています。2014年のこの時期は上流で大雨が続いたことから水かさが増していましたが、2015年の水位は平年より2フィート(約60cm)ほど低下しており、2009年以降で最も低い状況です。このため、河口から276kmにあるサン・ペドロ港の上流付近(*)で大型船5隻が相次いで座礁しました。また安全に航行できる水路が狭くなることで、対向して航行する船舶同士の衝突リスクも増大しています。

(*) 286~290km地点の"Paso Abajo Los Ratonés"と呼ばれる狭水路で、流れの速い場所です(上図の黄色いエリア)。

3. 救助時の留意点

パラナ川での救助では、以下のような点に留意する必要があります。

- 潮の干満による浮力を利用できないため、自力離礁が難しい。
- 離礁に必要なタグボート費用がUSD3,000~USD3,500/時間と高額で、48~72時間相当の最低保証に加え、USD150,000~USD200,000の救助報酬加算があり、タグ1隻あたり最低でもUSD300,000~USD400,000が必要になる。(現地コーストガードの要請で2隻による作業を義務付けられるケースもある。)
- 河川航行を妨げた場合、付近を航行予定の船から滞船損害等の請求を受ける可能性がある。

4. 事故回避に向けて

パラナ川での座礁や衝突を回避するためには、以下の点を徹底する必要があります。

- 現地コーストガードが公表する通航箇所(港)の最大喫水・水深や浚渫エリアの最新情報を確認し、2フィート(約60cm)の船底余裕水深(UKC: Under Keel Clearance)を守る。
- パイロット(水先人)が持つ最新の電子海図を用いる。(川の情報が定期的に更新され、ノートパソコン等で使用する。)
- パイロットに航海計画を十分に説明し、アドバイスに応じて航海計画の修正を行う。
- 特に狭水路等を通航する場合、①速力を抑え、②航路の中心をキープし、③対向船とのすれ違いを避ける。
- 上記を踏まえ、パイロットの判断に任せきりにせず、船長が本船の安全を最優先に考えて行動する。

本ニュースがお客さまの安全な航海に少しでも役立てば幸いです。

◆関連参考資料: MSI Marine News 2013年4月10日号・SKULD社ニュース 2014年4月11日号

以上

